

公益社団法人 和歌山県理学療法士協会 ニュース

THE WAKAYAMA PHYSICAL THERAPY ASSOCIATION NEWS

2014 March No.71

発行
公益社団法人
和歌山県理学療法士協会

発行責任者: 中前 和則
編集者: 上野山 佳男
ホームページ: <http://pt-wakayama.or.jp>
メールアドレス: w-pt-a@pt-wakayama.or.jp

巻頭言

祝 公益社団法人移行記念祝賀会



会長 中前 和則

去る2月15日に、公益社団法人取得の記念事業として記念講演及び記念祝賀会をアバローム紀の国に於いて開催いたしました。

県下住民の方々への公益法人取得の周知は、記念講演の開催及びその広報を通じ十分行えたと感じております。また、記念祝賀会では、県知事様をはじめ市町村長様、国会・県議会議員様、県・市町村関係部局長様、医師会をはじめとする関係団体の長様、理学療法士の勤務施設長様等にご参加を頂くことができ、ご披露と今後の関係づくりに役立つ手がかりを得ることができたと感じております。

今回の開催は、当会の将来のために意義深い事業となりました。

この場をお借りしまして、森本準備委員長及び準備委員の方々、協力いただいた会員の方々に深く感謝申し上げます（詳細は、森本実行委員長の報告をご参照ください）。

地域包括ケアシステム構築に向けて理学療法士の参加する意義

厚生労働省は、高齢化率がピークに達する2025年に向け、社会保障計画の見直しや改革など、財源がない中で、如何にして医療・介護の問題を解決するかを検討し、その中において「地域包括ケアシステム」の構築を目指しています。これは、厚生労働省の長期計画指針ではっきりと示され、今回の医療保険改革でも、地域包括ケア病棟が設置される等と明らかで、人口10万人規模または市町村単位で中学校区を一圏域として、地域でいつまでも安心して暮らせる包括的なケアシステムを構築しようというものです。地域格差が激しくなっている日本各地の現状を踏まえ、地域の特性を踏まえた包括ケアシステムが必要となります（次ページに厚生労働省のイメージ図を掲載していますのでご参照下さい）。

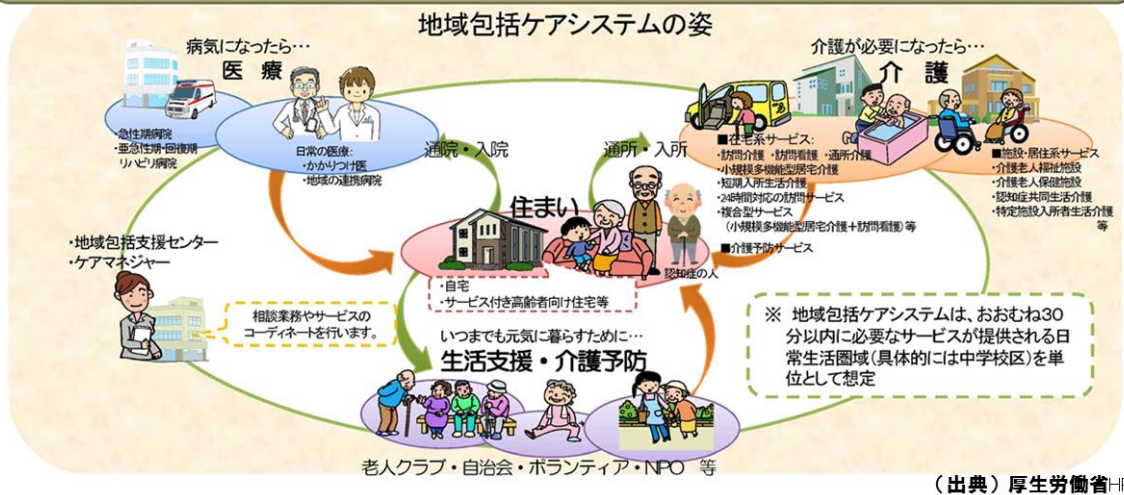
現状においてはそれらの計画はあまり進んでおらず、そのことは我々にとって将来を明るいものにするためのチャンスであります。しかし事の進み具合によってはピンチにもなってしまいます。将来にわたる医療計画の中で我々理学療法士が、職域が一部競合する医療職及び医療類似職（看護師、柔道整復師、マッサージ師、介護福祉士、ケアマネジャー、作業療法士、言語聴覚士等）よりも信頼される職業として職域拡大が望めるかどうかがかかっているのです。これは、地域で活動する訪問リハ関係の理学療法士だけではなく、急性期医療に携わる理学療法士を含む全ての理学療法士に関わることです。「地域包括ケアシステム」に関わる各セクションで、理学療法士がしっかりと役割を果たすことが重要になります。

また、現在の対象者に対するケアプランは介護色が強く、自立・予防等の観点が少ないと懸念されています。そのような中で、的確な評価ができ、自立・予防の両方の観点から対象者を把握できる理学療法士の手法が非常に評価されています。できることなら、全国の全ての市町村（1742市町村）の地域包括ケア会議に理学療法士が参加し、市町村ごとの特色ある「地域包括ケアシステム」の構築に向け建設的な意見を述べられる体制が必要です。一つでも多くの市町村でこのような形がとれることが必要で、和歌山県でも、県下30市町村に1圏域2～3名の担当者を決め、地域ケア会議への参加ができる体制を作っていきたいと考えています。

当協会では今後早急にアクションプランをたて活動していきたいと考えていますので、ご協力の程よろしく願ひ申し上げます。

地域包括ケアシステム

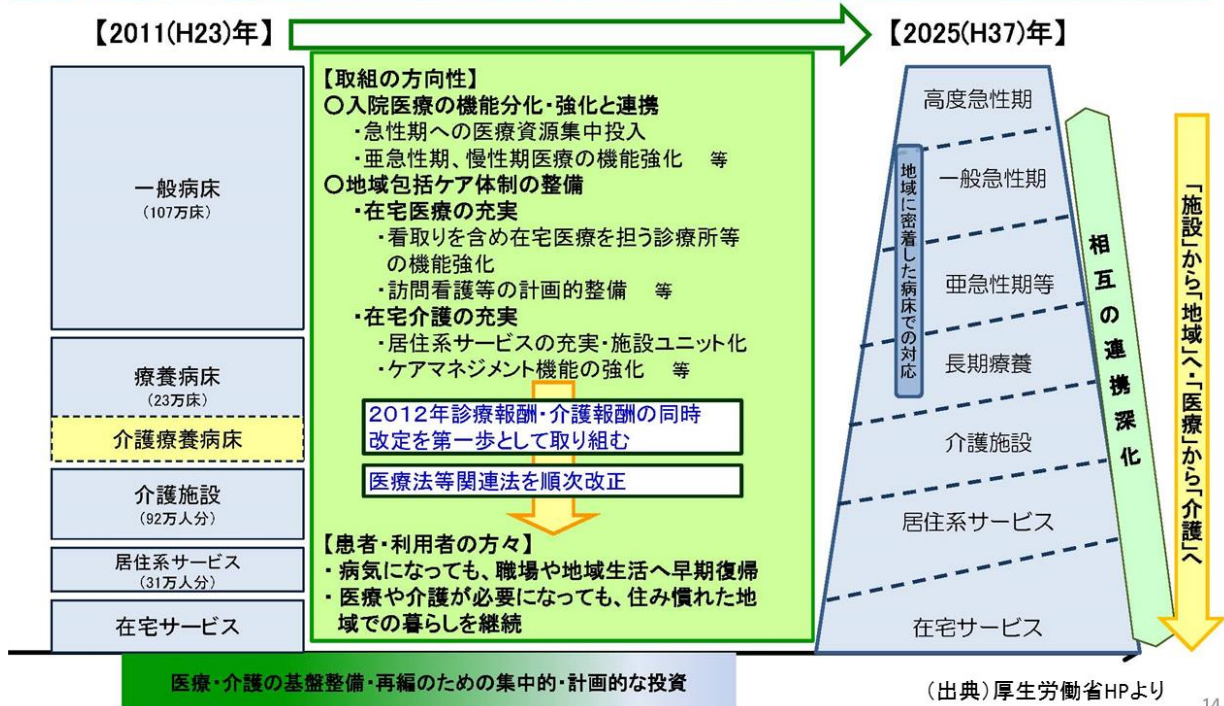
- 団塊の世代が75歳以上となる2025年を目途に、重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、**住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築を実現**していきます。
 - 今後、認知症高齢者の増加が見込まれることから、認知症高齢者の地域での生活を支えるためにも、地域包括ケアシステムの構築が重要です。
 - 人口が横ばいで75歳以上人口が急増する大都市部、75歳以上人口の増加は緩やかだが人口は減少する町村部等、**高齢化の進展状況には大きな地域差**が生じています。
- 地域包括ケアシステムは、**保険者である市町村や都道府県が、地域の自主性や主体性に基づき、地域の特性に応じて作り上げていく**必要があります。



将来像に向けての医療・介護の機能再編の方向性

医療・介護機能の再編（将来像）

患者ニーズに応じた病院・病床機能の役割分担や、医療機関間、医療と介護の間の連携強化を通じて、より効果的・効率的な医療・介護サービス提供体制を構築します。



■公益社団法人取得記念事業（公開講座・記念祝賀会）開催■

実行委員長 森本 昌信

2月15日（土）アバローム紀の国に於いて、公益社団取得記念事業を開催いたしました。

皆様ご承知のとおり、昨年4月に公益社団法人の認可を受けました。これを記念し事業開催に向けて昨年6月に第1回準備委員会を開催してから10回の会議を重ね鋭意準備を進めてまいりました。

また、記念事業開催にあたり運営協力依頼時には多くの会員の皆様より協力のお声をいただき有り難うございました。お陰様で多数の来賓ならびに関係者の出席のもと、成功裡に終了することが出来たことを皆様にご報告申し上げます。

公開講座には「いきいき人生の秘訣 ～悔いなく元気に生きるために～」と題し、キャスター・リポーターでお馴染みの東海林のり子氏に講演をしていただきました。一般参加、来賓および会員を含め約500名の参加者があり、特に一般参加申し込みは当初の予想を遙かに超える申し込みがありました。また記念祝賀会では国会議員、県議会議員、県知事・市町村長、関係団体、施設長様等、50余名の来賓に出席をいただきました。出席いただいた皆様より温かいご祝辞のお言葉を頂き盛大に開催でき、理学療法士協会を一般県民や関係団体等にアピールすることができました。

今回の記念事業開催にあたり役員ならびに準備委員の皆様、また当日運営協力をいただきました会員の皆様には、この場をお借りしお礼申し上げます。

今後とも、協会事業へのご協力よろしくお願い申し上げます。





■新しい協会ロゴマーク決定！！

広報局担当理事 吉富 俊行

公益社団法人移行に合わせて協会ロゴマークを新調しました。

コンセプトは、中心の患者さんを左右から優しく支える理学療法士を「和歌山」の頭文字「W」で表現しています。

柔らかい雰囲気マークに対し、協会名はしっかりとしたゴシック系で信頼性を表しています。

名刺や封筒、新年度よりリニューアルされるホームページに使用されます。

これまで使用していたマークはシンボルマークとして、式典や修了証などに引き続き使われます。



公益社団法人

和歌山県理学療法士協会

理事会 報告

■平成 25 年度第 6 回理事会 報告■

日 時：平成 26 年 1 月 18 日（土） 15:30～20:50

場 所：琴の浦リハビリテーションセンター

参加者：16 名

（理事）中前、林、上西、森本、前、岩崎、松井、須賀、池田、南、吉富、有馬、西川、安井

（監事）浦、川村

（書記）坂本

- ・会長挨拶：学術・職能・公益の 3 事業をバランス良く展開していきたい。

各局の事業については 1 事業 1 部長により、計画・運営の経験をしてもらい人材育成を行っても良いのではないかと考えている。

地域包括ケアシステム推進について説明。

日本理学療法士協会主催、士会長研修会「地域包括ケアシステム構築に向けた国の施策動向とリハ職に期待される役割」に参加。会員が、地域包括ケアシステム構築のための地域ケア推進会議に参加し、理学療法士が活用されるシステムを提案していかなければならない。

今後、高齢化に伴い介護ニーズの増大が予測され、理学療法士の職域を広げる必要あり。

地域ケア推進会議への理学療法士（リハ職）の参画が必要。

地域ケアシステムに向けた説明会に半田会長が来和（2/14 予定）。

議 案：

1. 各局からの報告、検討事項

1) 事務局：資料にそって報告。平成 26 年度事業計画案を提示←承認

1 月 14 日現在 会員数 986 名

休会申請、退会申請者あり今後も地域局に協力をお願いしながら、慰留に努める。

2) 学術局：資料にそって事業報告。平成 26 年度事業計画案を提示←承認

①研修会「リハビリテーション実践 積極的な早期リハを考える」への支援センター勤務者の参加が少なかった。

②平成 26 年 2 月 9 日（日）の新人教育プログラム必須初期研修を受講すると新人教育プログラムの早期履修終了につながると思われるので、未履修者に対して参加を促して頂きたい。

③管理運用部からの要望（添付資料）として

- ・研修会企画の時点で、新プロテーマを決めてもらいたい。
- ・協会行事参加については履修ポイントを明瞭化していただきたい。
- ・各研修会等に講師又は運営協力をした会員は生涯学習のポイント付与となるので、日理協に対し届け出を促して頂きたい。
- ・各局からの「新人教育プログラム履修対象事業一覧」に更新が滞っているので、年間行事計画を会員に早期から案内するために更新をして頂きたい。

④新人研修、オリエンテーションを 5 月 17 日（土）13:00～に行い、研修会・総会を 5 月 18 日（日）午前中に行う方向で検討。

⑤中紀・紀南地方で開催する新人教育は出来るだけ会場費のかからない所を設定して頂きたい。

- ・会場費については開催地域局予算にて実施する。

3) 福祉・保健局：資料にそって事業報告。平成 26 年度事業計画案を提示←承認

①九度山町で開催された第 82 回地域リハビリテーション講座は好評を頂き、今回参加出来なかった山間部の住民に対しても開催して欲しいとの声があった。

②平成 26 年度予算案について山間過疎地対象介護予防事業は地域医療再生事業補助金申請をする。

その他、一部変更を加える。

4) 社会局：資料にそって事業報告。平成 26 年度事業計画案を提示←承認

①福祉保健局合同研修会の講演「地域包括ケアシステムにおける我々の役割」は 3 団体代表として地域医療再生事業補助金事業申請をする。

- ②平成 26 年度理学療法士長研修会の開催日を平成 26 年 7 月 13 日（日）で検討。
 - ・予算は協会職能の予算で執り行う。
- ③第 19 回和歌山県病院協会学術大会、第 15 回病院大会開催は 11 月 30 日に決定。

5) 厚生局：資料にそって事業報告。平成 26 年度事業計画案を提示←承認

- ①身体障害者野球チーム「ヤマト和歌山」の後援が決定し、チームポスターに協会名が添付されている。
- ②新人歓迎会を 5 月 17 日（土）新人研修・オリエンテーション終了後にアバローム紀の国で行うよう検討。

6) 広報局：資料にそって事業報告。平成 26 年度事業計画案を提示←承認

- ①ホームページ上に事業計画をリアルタイムに確認出来るバナーを作製し、各局より随時入力し、会員に対し周知出来るシステムを作る。
- ②ホームページについて
 - ・研修会の案内を主催者別に色分けなどをして分かり易く出来ないか検討。
当協会事業と他団体事業をバナーで分ける事も検討する
 - ・地域リハマップについては福祉保健局の内容更新作業が終わり次第更新する。
地域リハマップの内容更新については会員の従事している施設のみとする。
内容変更の対応は半年に一回とする。
 - ・3 月中旬に製作会社から説明会を開催予定
 - ・ホームページに対する意見は今月中に提出する事とする。
- ③協会ロゴマークについて
 - ・公益取得記念式典で披露できるように準備中
- ④予算総額を 95 万円とする
- ⑤協会独自開催バリアフリー体験学習会に対して県の補助を受けられないか検討する。

7) 各地域局：資料にそって事業報告。平成 26 年度事業計画案を提示←承認

8) 財務局：資料にそって平成 26 年度予算案を提示←承認

- ①各局予算変更点を修正する。
- ②厚生局予算は平成 25 年度削減したので平成 26 年度はこれをもどし、38 万円から 40 万円とした。

2. その他

1) 代議員：資料にそって平成 26 年度事業計画案を提示←承認

2) 公益社団法人取得記念事業：資料にそって準備状況を報告←承認

- ①記念講演に対する一般参加希望者が順調に伸びている。
- ②運営協力申込者に対して協力要請、協力内容決定の案内を行う。

3) 紀の国わかやま国体支援特別委員会：資料にそって事業報告。平成 26 年度事業計画案を提示←承認

- ①メイン会場の紀三井寺競技場含め 2～3 会場のサポートを検討。

4) 地域包括ケアについて：資料にそって説明←承認

- ・2 月 14 日に日本理学療法士協会半田会長より和歌山県理学療法士協会役員に対し地域包括ケアについて説明が行われる予定で準備をすすめている。
- ・地域包括ケア構築に向け岩崎理事より各施設にアンケート調査を実施中。
- ・平成 27 年より地域ケア会議の開催が義務化されるので、その場に理学療法士が参加できるよう働きかける必要がある。
- ・企業体レベルで、理学療法士を地域ケア会議等に派遣してもらう様に働きかけが必要か。
- ・他職種からは理学療法士は要介護者の生活全般についての理解は薄いと思われがちであるので、その認識を変えていく様、働きかけが必要。
- ・地域ケア推進会議に参加し、その地域独自のケア計画にリハの必要性を認識させる意見を出していく事と同時にリハを拡充させていく事が必要。

- ・地域包括ケアの中ではケアマネジャーは中心的な位置づけになるため、ケアマネジャーに対して理学療法的重要性・必要性の認識をしてもらう事が必要で、ケアマネジャーや市町村の保健師等に対する理学療法の認識を深める研修会等を開催する必要がある。
- ・岩崎理事には今後地域包括ケア担当の理事として担当部長・部員を選出して頂き、活動をお願いする。
- ・福祉・保健局の活動については松井理事、須賀理事に引き続きお願いする。 → 承認

5) 和歌山県医療従事功労者賞に杉本勲業先生と中西靖治先生が第1号として受賞

福祉・保健局より

福祉・保健局担当理事 須賀 和明

福祉保健局では、第81回地域リハビリテーション講座をみなべ町で、第82回地域リハビリテーション講座を九度山町で、訪問リハビリテーション研修会を和歌山市で行いました。部長部員はじめ運営にご協力いただいた会員の皆さんに感謝いたします。引き続きご協力よろしくお願いします。

◇「第81回地域リハビリテーション講座」

福祉・保健局担当理事 須賀 和明

平成25年11月30日(土)に和歌山県からの委託事業として、障害福祉を目的に講義をみなべ町ふれあいホールにて行いました。参加人数は38人で、東冬彦先生による講義及び運動指導が行われました。運営にご協力頂きました先生方ありがとうございました。

「第81回地域リハビリテーション講座」

日 時：平成25年11月30日(土)

場 所：みなべ町 ふれあいホール

講 師：東 冬彦(東クリニック)

鳥淵 佳寿(訪問看護ステーションふるさと)

対 象：南部町住民 38名

参加者：木下(自宅)、鳥淵(訪問看護ふるさと)、須賀・上村・森本(白浜はまゆう)、橋本(成華苑)
大江・竹本(玉置病院)

「地域リハ講座に参加して」

玉置病院 竹本 有里

今回、11月30日にみなべ町で開催された地域リハ講座に参加させて頂きました。

約40名と多くの方が参加され、リハビリや健康に対して意識が高いと感じました。握力や片脚立位などの運動機能評価の実施、Dr.による講演、家庭でできるリハビリとして実際に体操の実技が行われました。また、最後には個別で相談を受け、実際に運動や指導をさせていただきました。参加者の方々々は楽しく、また真剣に取り組まれていたのが印象的でした。

今回このような体験を通して、私自身も楽しみながら参加させて頂きましたし、地域の方々と関わりを持つていくことは自身の身体やリハビリに対して意識を高め、転倒予防等につながるのだと改めて考えさせられました。



◇「第 82 回地域リハビリテーション講座」

福祉・保健局担当理事

松井 有史

和歌山県の委託事業として、九度山ふるさとセンター大会議室にて、平成 25 年 12 月 7 日（土）にリハビリテーション講座を行いました。内容は「理学療法について」がメインテーマで、参加者は積極的に取り組み、質問も多く、大盛況でした。運営にご協力頂きました先生方、ありがとうございました。

「第 82 回地域リハビリテーション講座」

日 時：平成 25 年 12 月 7 日（土）

場 所：九度山町 ふるさとセンター

講 師：松井 有史（和歌山国際厚生学院）

対 象：九度山町住民 70 名

参加者：岩崎（栗原整形）、松本（名手病院）、梅下（さくらの丘）、森本（紀和病院）

服部（山本病院）、山本（横手クリニック）、木村（那賀病院）、河口（寺下病院）

「第 82 回地域リハビリテーション講座に参加して」

公立那賀病院 木村 有里

平成 25 年 12 月 7 日（土）に九度山町ふれあいセンターで第 82 回地域リハビリテーション講座が開催され、スタッフとして参加させていただきました。九度山町は私が生まれ育った場所でもあり、参加者の中にはよく知っている人もいました。

講師は私の恩師である和歌山国際厚生学院の松井先生で「首・肩・膝痛に対するリハビリテーション」を題材に、慢性痛から起こる日常生活障害を分かりやすく説明していただきました。

後半は「家庭で出来るリハビリ」というテーマで、運動を参加者の皆様と一緒に行いました。先の講演で慢性痛について説明してくださっていたため、運動の必要性の理解がさらに深まったようで真剣に取り組んでいました。

障害のない生活を過ごしていくためには日常生活の中で健康づくりを実践することがとても大事だとご理解いただけたように感じます。



◇「介護予防講座」（独自事業）

福祉・保健局担当理事

須賀 和明

平成 26 年 2 月 22 日（日）に和歌山県理学療法士協会の独自事業として健康推進を目的に講義を田辺市中辺路 高原多目的集会所にて行いました。参加人数は 11 人で、肩・膝関節痛・腰痛について介護する方たちの予防を中心に講義及び運動を行いました。運営にご協力頂きました先生方ありがとうございました。

「介護予防講座 痛みの原因と対処法 ～肩・膝関節痛、腰痛について～」

主催：県理学療法士協会

日時：平成 26 年 2 月 22 日（日）

場所：田辺市中辺路 高原多目的集会所

講師：森本信三（白浜はまゆう病院）

対象：中辺路町住民

参加者：須賀、上村（白浜はまゆう病院）、大江（玉置病院）



「介護予防講座 痛みの原因と対処法 ～肩・膝関節痛、腰痛について～」に参加して

玉置病院 大江 値世

2月22日（土）に田辺市中辺路の高原集会所で健康教室が開催され、参加させて頂きました。当日は晴天でしたが少し寒い1日でした。

参加された11人の地域住民の方達は皆活気があり、寒さも気にされていない様子でした。

森本理学療法士が講義を行い、途中で体操を入れながら皆で体を動かしました。家庭でできる体操や自宅で転倒しないように注意することを説明しておられ、参加された方も熱心に聞かれていました。最後に皆で中辺路音頭を踊って終了いたしました。日常生活で自分の身体について考える機会を持ってもらうことは大切だとあらためて思いました。最後にこのような機会を持たせて頂いたことに感謝を致します。

◇「第4回訪問リハビリテーション研修会」

介護保険対策部員 阿川 省吾

今回で訪問リハビリテーション研修会は4回の開催となりましたが、近年ますます訪問リハビリテーションの必要性が増している現状が見えております。研修会において、今後の国の方針では「在宅医療」に移行していく動きもみられ、訪問リハビリテーションに関して共通認識ができたのではないかと思います。また和歌山県下において3士会合同で行う研修会は数少なく、有意義な時間が過ごせたと感じました。来年も行う予定ですので、まだ参加されていない協会の皆様も是非参加してください。

当日ご参加頂きました先生方、準備に協力頂きました先生方ありがとうございました。

主 催：社団法人 和歌山県理学療法士協会、一般社団法人 和歌山県作業療法士会、和歌山県言語聴覚士会

共 催：全国訪問リハビリテーション振興委員会

日 時：平成26年2月1日（土）～2月2日（日）

会 場：和歌山市あいあいセンター（福祉交流館） 3階

参加者：108名（PT：62名、OT：29名、ST：5名、MS：8名、Nrs：3名、その他：1名）

内 容：

①土井 勝幸 先生（医療法人財団 東北福祉会 介護老人保健施設 せんだんの丘 施設長
一般社団法人 日本作業療法士協会 常務理事）

「地域包括ケアシステムとリハビリテーションについて」

②高垣 有作 先生（国保すさみ病院 院長）

「地域連携方法論」

③永来 努 先生（株式会社 コンパス 代表取締役 言語聴覚士）

「明日からできる在宅での口腔嚥下・言語指導方法について」

④平野 康之先生（徳島文理大学 保健福祉学部 理学療法学科）

「訪問リハビリテーション実務に必要なフィジカルアセスメント」

「利用者の病状変化（急変）に対して訪問リハ従事者が実施すべき評価と対応」

①～②は「地域連携リハビリテーション研修会」として看護師、介護支援専門員、介護福祉士も参加。



「第4回訪問リハビリテーション研修会に参加して」

和歌山国際厚生学院 松井 有史

平成26年2月1日～2日にかけて第4回訪問リハビリテーション研修会に参加しました。職業柄、訪問とは縁の遠い働きをしておりますが、参加した感想は「大変良かった」の一言です。まず1日目、土井先生より「地域包括ケアシステムとリハビリテーションについて」の講義では、今後の日本において我々リハビリテーション職はどのような働きをしなければならないのか？がとても分かりやすく解説され、将来を見据えた行動が必要と痛感いたしました。次に高垣先生より「地域連帯方法論」の講義では、現在すさみ町で行われている連携方法をご講義いただき、過疎化地域をより効率よく医療提供する環境面の整備が重要であることが分かりました。またKJ法を用いて地域連携の問題点を再認識しました。

2日目からは、永来先生による「明日からできる在宅での口腔嚥下・言語指導方法について」を聞き、専門分野ではない我々（理学療法士）でも、専門職として目の前の患者さんの生活をいかに過ごしやすくするか？に焦点を当てていただき視野が広がりました。次に平野先生の「訪問リハビリテーション実務に必要なフィジカルアセスメント」「利用者の病状変化（急変）に対して訪問リハ従事者が実施すべき評価と対応」では、我々が訪問にて必要な知識を講義していただき、本校の学生にも聞かせたいと思うほどでした。結論から申しますと、訪問リハを行っていない施設にお勤めの方も損はしない内容です。

来年も新たな題材で行う予定ですので、是非是非ご参加してください。

社会局より

◇第18回和歌山県病院協会学術大会報告

社会局 コメディカル担当部 部員 片岡 大輔

去る平成25年11月23日（土・祝）、ホテルアバローム紀の国において、第18回和歌山県病院協会学術大会が開催されました。参加者数は、903名（昨年1004名）で理学療法士は51名でした。学術大会においては、要望演題11題、一般演題60題、ポスターセッション14題の計85題の発表があり、当協会からは、一般演題（第4会場）において、藤野隆先生（寺下病院）、武田真也先生（角谷リハビリテーション病院）、中谷聖史先生（河西田村病院）に座長をして頂き、

梅本裕司先生(名手病院)、藤本敦久先生(中江病院)、平岡哲哉先生(紀和病院)、西川勝矢先生(河西田村病院)、吉良央子先生(貴志川リハビリテーション病院)、山本麻衣先生(中江病院)、福嶋早紀先生(中江病院)、森田将行先生(寺下病院)、大橋惇矢先生(角谷リハビリテーション病院)、田原千秋先生(桜ヶ丘病院)の計10名が発表されました。また、今大会より各セッション内で優秀賞の選出が行われました。

午後からのメディカル・スタッフ団体シンポジウムでは、「大規模災害への対応」という共通テーマのもと、和歌山県看護協会、病院薬剤師会、栄養士会、臨床工学技士会、福祉保健部健康局の5団体がシンポジストとして発表されました。

この度、学術大会に際しまして日頃のお忙しい業務の中、準備をして発表された先生方はお疲れ様でした。また、ご多忙の中、座長をお引き受け下さいました先生方は誠に有難うございました。

最後になりましたが、この学会は多職種協働で開催されます。その為、多職種との貴重な意見交換の場となり、我々理学療法士をアピールするための場ともなりますので、今後も多くの先生方が発表されることを期待しています。

◇平成25年度「多職種協働による在宅医療推進研修会」報告

社会局担当理事 池田 吉邦

去る、平成25年12月5日(木)に、和歌山県勤労福祉会館プラザホープ4階大ホールにおいて、和歌山県病院協会主催で本事業が初開催されました。和歌山県では、平成25年度地域医療再生計画として①災害医療対策の強化、②在宅医療の推進、③医師確保対策等を策定している。そこで和歌山県病院協会は、在宅医療の推進において「在宅医療を担う人材の育成を目的とした事業」を県委託にて実施する運びとなった。この事業を実施するにあたって、プロジェクトチームを設置し、多職種間の相互理解やコミュニケーション能力の向上を図る為、関係職種の合同研修開催により、多職種協働による在宅医療推進の充実を図ることを目的として本研修会が企画されました。そこで、公益社団法人 和歌山県理学療法士協会からは理学療法士協会会員の林元光広 先生(有限会社Getwell 訪問看護ステーションはやしもと 代表取締役)が代表シンポジストとして、「在宅医療への取り組み」のテーマで「訪問理学療法士の現状と課題」について、演題発表されました。

全体のプログラムとしては、基調講演で飯島勝矢 准教授 医学博士(東京大学 高齢者総合研究機構)が『終(ついに)の住処(すみか)はどこに「Aging in Place: 治し、支える医療」を目指して』と題してご講演されました。先生は研究機構で地域包括ケアシステムのモデル構築等を行い、他職種連携を充実させた在宅医療の普及が不可欠で、「点」の活動から「面」への展開が求められており、在宅医療連携拠点の役割が非常に重要となると話されていました。シンポジウムでは、和歌山県病院協会 理事 川嶋寛昭 氏がコーディネーターをされ、県理学療法士協会の他、県病院協会 橋本道弘 氏が「在宅医療連携拠点事業の取り組み」、県看護協会 古川嘉代 氏が「在宅における訪問看護師の役割」、県作業療法士会 寺本千秋 氏が「訪問作業療法士(OT)の現状と課題」、県介護支援専門員協会 小長谷恭史 氏が「介護支援専門員と医療連携」、県病院協会 山本博晟 氏が「山本病院の取り組み」について発表され、テーマに基づいた討論会が行われました。

今回の研修会は、184名(所属別:メディカルスタッフ団体等10名、病院勤務124名、施設勤務50名)、(職種別:医師7名、看護師53名、臨床検査技師2名、理学療法士28名、栄養士5名、臨床工学士3名、作業療法士9名、介護支援専門員35名、社会福祉士15名、事務関係27名)の参加者があり、平日の午後からの開催でしたが、盛況に企画開催されていました。次年度も、このプロジェクトに関連した研修会の開催が企画される見込みです。

今後、理学療法士は地域包括ケアシステムにおける役割を認識し専門職種として、医療と介護の連携を促進しリーダーシップを発揮していかなければなりません。学術研鑽はもとより、連盟活動も含め職能に関して、我々の身分対策について、平成26年もより一層の団結力を発揮し、公益団体として会員諸氏が啓発できるように共に頑張っていきましょう。

◇平成26年度 社会局からの事業計画・ご案内

社会局担当理事 池田 吉邦

社会局・福祉保健局合同研修会

日 程:平成26年4月20日(日) 8:30 受付 9:00~12:30

場 所:和歌山県立医科大学 講堂

講 師:①川越雅弘 氏(国立社会保障・人口問題研究所)(9:00~11:00)

②杉本恵章(診療報酬身分対策部長)⇒報酬改定について(11:15~12:15)

内 容:①「地域包括ケアシステムにおける我々の役割」

②平成26年度「診療報酬改定について」~改定情報等~

第 53 回日本公衆衛生学会近畿地方会

日 程：平成 26 年 5 月 22 日(木)

場 所：和歌山県民文化会館（和歌山市小松原通 1-1）、アバローム紀の国

内 容：特別講演、公衆衛生関連演題発表など

平成 26 年度 多職種協働による在宅医療推進研修会

日 程：平成26年6月26日(木) 14:00～17:00

場 所：勤労福祉会館 プラザホープ 4 階「大ホール」

趣 旨：多職種協働によるチーム医療の充実を図る

内 容：事例検討（退院援助、退院調整から在宅での多職種協働事例を紹介など）

施設・理学療法士長の研修会

日 程：平成 26 年 7 月 13 日(日) 8:30 受付 9:00～12:00

場 所：和歌山県立医科大学 臨床講堂 1

内 容：(仮題)「管理運営・リーダーシップなど」～理学療法士の現状と課題～

講 師：山根一人（公益社団法人 日本理学療法士協会 理事）

第 19 回和歌山県病院協会・学術大会・第 15 回病院大会

日 程：平成 26 年 11 月 30 日(日)

場 所：アバローム紀の国

内 容：テーマは近年の情勢にあった内容、一般演題・特別講演・シンポジウムなど

※順次に、ご案内いたしますので、奮ってご参加ください！

厚生局より

◇第 18 回 WPTA 杯ゴルフコンペ開催

幹事 辻中 清晃

2 月 23 日（日）に、白浜ビーチゴルフクラブにおきまして、参加者 18 名で第 18 回 WPTA 杯ゴルフコンペを開催しました。

今年の 2 月は、毎週末に大雪になっていたのでは、開催できるかどうか危ぶまれましたが、当日は（参加者皆さまの日頃のおこないの成果？）お日様がカポカで寒さもほどほど、また、風もそれほど強くないという言い訳無用の絶好のコンディションでの開催となりました。

優勝は、第 16 回の優勝者でもある日根先生（綿貫）、2 位が竹中先生（紀南）、3 位が森本先生（琴の浦）と、協会きっての実力者によるワンツースリーとの結果になりました。

また、初参加の古家先生（紀南）・角田先生（日赤）お疲れ様でした。

第 19 回は今年の秋に開催される予定です。皆さまご参加のほどよろしくお願い致します。



◇「ふれあいフェスティバル」参加報告

広報局担当理事 吉富 俊行

平成 26 年 2 月 1 日（土）に桃山保健福祉センター（きらめきセンター）において、那賀振興局健康福祉部主催、紀の川市、岩出市、那賀圏域障害児・者自立支援協議会の共催にて、平成 25 年度「ふれあいフェスティバル」が開催されました。

本イベントの目的は、障害者の社会参加の促進を図り、障害のある人となない人のお互いの理解と交流を深めることで、今回は来年開催される「紀の国わかやま大会」の紹介を中心に、障害者スポーツについての講演や、和歌山県出身の坂本冬美さんが唄うイメージソングの「明日へと」を手話コーラスで紹介したり、那賀地域出身の地元強化選手のトークが行われたりと、まさしく国体一色のイベントでした。

我々はバリアフリーについてのお話と車椅子の扱い方や注意などを、舞台上にてデモンストレーションさせて頂きました。またブースにおきましても車椅子体験を実施し、段差越えの介助やスロープ昇降の仕方など、実際に車椅子に乗車したり押したりして難しさや怖さなどを感じて頂きました。

来年の国体開催期間は地元選手も含め多くの車椅子使用者が和歌山県内を訪れると思われ、おもてなしの一環として車椅子利用者の立場になって介助やボランティアが行えるように、参加された方々に説明や指導を行いました。

紀の国わかやま国体ならびに紀の国わかやま大会では、我々理学療法士が選手団の身体サポートを行う予定で現在準備を進めていますが、障害のある方々と関わる専門職としては他にもいろいろな形でサポートすることができると思われるため、理学療法士の知識と経験を生かした関わりを考えていく必要があると思います。参加協力して頂いた会員の方々に感謝いたします。

参加会員：阪口（海南医療）、井潤（済生会和歌山）、前田（紀和病院）、西中・坂本（那賀病院）

前馬・吉富（日赤）



「ふれあいフェスティバルに参加して」

公立那賀病院 坂本 陽平

平成 26 年 2 月 1 日（土）に桃山保健福祉センターで行われた、障害者福祉地域啓発事業「ふれあいフェスティバル」に参加させて頂き、地元の方や国体選手の方、他施設の先生方、多くの方々と関わりを持つことができました。今回は主に車いすを使用するのバリアフリー体験教室で関わらせて頂きました。

車いす体験では初めて車いすを使う方がほとんどで、その中で安全に車いすを使うポイントや介助方法等をご説明しました。どのくらいの段差であれば越えられるのか、車いすの種類等の様々な質問があり、わかりやすく伝えることの難しさも感じましたが、参加した方々とお話をする機会が多くあり、大変貴重な経験となりました。またこのような機会があれば積極的に参加させて頂きたいと思っております。

◇バリアフリー体験学習会の報告

広報局担当理事 吉富 俊行

平成 26 年 2 月 9 日（日）に海南市立中野上小学校において、協会独自事業のバリアフリー体験学習会を開催しました。中野上小学校で体験学習会を開催するのは今回で 3 回目となり、6 年生にとっては小学校生活最後の授業参観であり、親子で体験することの意義を考慮しながら実施しました。親子一緒に給食を食べた後、車椅子や松葉杖体験、視力障害者の誘導體験など、親子で協力しながら行って頂き、「こんな介助は怖い」とか「とても安心して任せられた」など、介助の仕方ひとつで感じるところが異なるため、身をもって体験し、相手の立場に立って考える「思いやり」の気持ちを育めることを願って学習会を行いました。また自宅でも体験についての話をする事で新たな何かを発見して頂けたらとも思っています。貴重な体験を提供するにあたり、参加協力して頂いた会員の方々に感謝いたします。参加会員：阪口・中村（海南医療）、林洋平・伊藤（辻秀輝）、吉富（日赤）



地域局より

【中紀発信】

中紀地域局担当理事 西川 典男

2 年目会員による学会発表

日 時：平成 25 年 12 月 15 日（日）10：00～16：00

場 所：海南市民交流センター

参加者：15 施設 59 名

座 長 山路 泰樹（恵友病院）

1. 薬物使用と時間帯での転倒・転落が起こる因子に関する統計学的研究
2. 独自の器具を用いることで自動車への移乗を獲得した C6B1 頸髄損傷者の一例
3. 下肢後面への超音波による重心動揺への影響
4. 自宅退院を目指した家族アプローチ ～糖尿病・両下肢切断患者の一例～

辻整形外科 吉岡 大祐
北出病院 羽山 亮佑
西岡病院 杉浦 宏太郎
北出病院 山根 由紀

座 長 西田 知弘（国保日高総合病院）

5. 糖尿病性壊疽による下腿切断患者に対し PTB 式義足の作製及び調節を行った 1 例
6. ウェルニッケ脳症の疑いがあり体幹失調・運動学習の低下を呈する患者様で、姿勢・動作指導に着目した症例
7. 高齢者における足底感覚の低下が転倒に及ぼす影響 ～2 点識別覚に着目して～

北出病院 根来 拓弥
有田南病院 山路 健太郎
辻整形外科 小笠原 諒

座 長 北野 加奈子（済生会有田病院）

8. 足底テーピングによる荷重量への影響
9. 整形疾患外来通院患者の身体活動量と抑うつ・不安の関係性について
10. ブラウンセカール型頸髄損傷患者に対する全身持久力トレーニングの成果
11. 左大腿骨転子部粉碎骨折後、荷重時期が遅延した症例 ～老健における他職種連携でのアプローチ～

西岡病院 西村 光平
辻整形外科 田村 照彦
北出病院 池ノ上 寛
恵友病院 比嘉 紀章

中紀局忘年会

日 時：平成 25 年 12 月 15 日（日）18：30～

場 所：ちゃんこ与太郎

参加者：8 施設 40 名

「中紀局学会に参加して」

リバティ博愛 土谷 宏美

平成 25 年 12 月 15 日に中紀局学会に参加しました。今回の学会も 2 年目の先生方を中心に 11 題の演目がありました。内容も症例検討や統計学的研究など多岐にわたり、活発な質疑応答が交わされていました。どの発表も理学療法に対し真剣に取り組まれるとともに創意工夫がなされており、大変刺激を受けました。私自身、日々の理学療法を再考するいい機会になりました。お忙しい中、発表された先生方、また、座長をして下さった先生方、学会運営を行って頂いた先生方、ありがとうございました。

また、学会終了後、「ちゃんこ与太郎」にて中紀局親睦会も行われました。多施設より参加があり、普段なかなか交流する機会のない先輩理学療法士の先生方や発表を終えたばかりの先生方と、病院・施設の垣根を越えた、楽しいひと時を過ごさせて頂きました。ありがとうございました。

【紀南発信】

紀南地域局担当理事 安井 常正

◇紀南地域局事業報告

紀南地域局会議

日 時：平成 26 年 1 月 11 日 16：30～

場 所：串本町内

参加者：泉 順和、西畑 将史、安井常正

内 容：次年度の紀南地域局ならびにブロックの事業計画について

新人発表会

日 時：平成 25 年 12 月 8 日 9：30～

場 所：紀南病院

参加者：48 名

左側股関節全置換術を施行した 1 症例 ～ボディ・イメージに着目し歩容改善を目指して～

社会保険 紀南病院 古家 郷

第 10 胸椎圧迫骨折後遅発性対麻痺を発症し、脊髄性運動失調を呈した症例

那智勝浦町立温泉病院 荒木 昇平

右片麻痺を既往に持ち、右上腕骨外科頸骨折を受傷した 1 症例 ～歩容の変化に着目して～

社会保険紀南病院 松本 大

右膝関節伸展筋群の筋力低下だけでなく腫脹のため歩行の実用性が低下した一症例

田辺中央病院 上釜 明人

認知症の既往があり大腿骨転子部骨折を呈した一症例 ～端座位の自立を目指して～

串本有田病院 森 賢太郎

目測による関節可動域測定を正確に行うための一考察 ～経験年数別の傾向をもとに～

独立行政法人 国立病院機構 南和歌山医療センター

第一腰椎破裂骨折を呈した症例について ～トレンデレンブルク歩行に着目して～

独立行政法人 国立病院機構 南和歌山医療センター

左膝関節伸展の関節可動域の制限により歩行の耐久性が低下した左人工膝関節全置換術後の一症例

田辺中央病院 辰己 正治

脳幹部出血を発症した透析患者の一症例

那智勝浦町立温泉病院 中村 美菜

小脳梗塞により失調症状を呈した一症例 ～座位保持獲得に向けてのアプローチ～

串本有田病院 北川 裕樹

右立脚初期に右前側方への不安定性が生じた右人工膝関節全置換術後の一症例

田辺中央病院 木原 良輔

在宅復帰に向けて歩容改善に取り組んだ一症例

白浜はまゆう病院 竝木 貴史

新人教育プログラム研修会

日 時：平成 25 年 12 月 8 日 12：20～
場 所：紀南病院
参 加 者：23 名
内 容：E-1 領域
講 師：武田真和(紀南病院)

第 3 回紀南地域局研修会

日 時：平成 26 年 3 月 2 日 9：30～
場 所：新宮市立医療センター
内 容：「肩関節のインピンジメントに対する理学療法」
講 師：篠田 光俊(国際医学技術専門学校)

◇第 6 ブロック事業報告

勉強会

日 時：平成 25 年 12 月 20 日 18：45～
場 所：串本有田病院
参 加 者：5 施設 12 名
内 容：「吸引について」
担 当：向井征範(串本有田病院)

日 時：平成 26 年 2 月 27 日 18：30～
場 所：新宮市立医療センター
参 加 者：5 施設 10 名
内 容：「前足部の荷重応答」
担 当：仲 賢一郎(しんぐうリハビリ訪問看護ステーション)

事務局より

他団体・他士会からのニュース 学術誌の受領報告 (H25.11.9～H26.2.27)

【ニュース】

(公社)新潟県 No.162、No.163	(一社)山梨県 No.141、No.142
(公社)滋賀県 No.181、No.182	(一社)静岡県 No.139
(社)大分県 No.97(158)	(公社)北海道 No.185
(公社)広島県 No.228、No.229、No.230	(社)佐賀県 No.95、No.96
(一社)愛知県 No.171、No.172	(社)大阪府 No.240、No.241
(公社)福岡県 No.196、No.197	(公社)埼玉県 No.75(116)
(公社)神奈川県 No.254、No.255	(公社)熊本県 No.112、No.113
(公社)秋田県 No.155、No.156	(公社)鹿児島県 No.53(92)
(社)長野県 No.44	(社)岐阜県 No.107、No.108
(一社)兵庫県 No.153	(一社)群馬県 No.116
(社)富山県 平成 25 年度 No.3(131)	(公社)長崎県 No.116

【学術誌・学会誌・機関誌・記念誌】

第 18 回和歌山県病院協会学術大会 会誌
第 22 回 埼玉県理学療法学会 抄録集
和歌山県病院協会会報 平成 25 年 11 月号 No.217
理学療法 東京 Vol.1 2013
和歌山県言語聴覚士会 News Letter 第 25 号
愛知県理学療法学会誌 Vol.25 No.2 2013

第24回 京都府理学療法士学会 学会誌
理学療法 臨床・研究・教育 第21巻
第27回鹿児島県理学療法士学会 プログラム・抄録集
理学療法いばらき Vol.18 No.1 2014
秋田理学療法 Vol.21 No.1 2013
和歌山県病院協会会報 平成26年1月号 No.218
第35回和歌山県医学検査学会 抄録集
理学療法 技術と研究 第42号 PTの起業 (神奈川県)
第31回神奈川県理学療法士学会 抄録集
会誌 和臨技 第41号 (一般社団法人 和歌山県臨床検査技師会)

以上の刊行物をご覧になりたい方は、

事務局、資料調査・管理部の坂本善朗氏（琴の浦リハビリテーションセンター）までお問い合わせ下さい。

■事務局からのお願い■

庶務部より 施設長名変更時のお願い

庶務部長 小田 佳亮

変更があった場合、速やかに協会庶務部宛にFAX またはメールにてご連絡下さい。

協会事務局 FAX : 073-446-1207

メールアドレス : wpt-shom@pt-wakayama.or.jp

記載の内容に関しては、変更前の氏名と変更後の氏名の両方を記載お願いします。

また、フリガナの記載もよろしくお願い致します。

FAXにて送信して頂く場合、文字は大きめで崩さずに記載して頂けるようにお願いします。

編集後記

桜のつばみも膨らんで春の訪れを告げていますが、会員の皆様いかがお過ごしですか。

さて、わが国の高齢化率は2025年に30%を超えると試算されており、これは諸外国と比較しても急速な高齢化率の上昇を辿っています。当会は公益社団法人として、社会ニーズに伴う公益性の高い事業を多く行っております。本年度は地域包括ケアシステムと介護予防に重点をおいた事業を実施しました。地域包括ケアシステムを円滑に行っていくためには多職種との協働は必須であり、お互いの専門性を理解し合うことも重要であります。また、当会事業の一つでもある介護予防事業を通して、健康な高齢者が多く存在する社会に寄与できると信じております。先日の公益社団法人取得記念事業の公開講座の参加者は約500名と盛大に行われ、記念祝賀会には和歌山県知事を含む多くの医療・福祉・行政関係者のご臨席を賜りました。これは、当会への期待と関心の現れであると感じております。

平成26年度診療報酬改定において、地域包括ケア病棟入院料が新設されました。これは次世代の社会へ対応した取り組みであり、高齢化率の推移と地域リハビリテーションの需要が相関関係にあると容易に予測できます。医療機関と在宅の垣根なく円滑に地域に帰るための理学療法が展開できるような事業も重要になってくると思われます。

本会ホームページは今春よりリニューアルし、本会の活動をより多くの人に知っていただけるように運用していきたいと思っておりますので、皆様からの情報をお待ちしています。（岩城隆久）

公益社団法人 和歌山県理学療法士協会
【事務局】
琴の浦リハビリテーションセンター内
〒641-0014 和歌山市毛見1451
TEL 073(499)5000